



TOHOKU
UNIVERSITY

報道機関 各位

NTT
docomo
gacco

2016年12月16日

東北大学
株式会社ドコモ gacco

東北大学 MOOC を 2 講座開講 (JMOOC プラットフォーム「gacco®(ガッコ)」より 【**解明:オーロラの謎**】【**memento mori-死を想え-**】)

東北大学は、株式会社ドコモ gacco(以下、ドコモ gacco)が運営する大規模公開オンライン講座提供サイト「gacco®(ガッコ)」(<http://gacco.org/>)において、「**解明:オーロラの謎**」「**memento mori-死を想え-**」の2講座を2017年2月に開講いたします。受講募集は、2016年12月16日15時より開始いたします。

東北大学では既に「eラーニングによる教育システムの拡充」を掲げ、東北大学生を対象としたISTU(Internet School of Tohoku University:東北大学インターネットスクール)の取り組みを推進し、成果を挙げてきましたが、この度、「世界と地域に開かれた大学」「市民の知的関心を受け止め、支え、育んでいける教育研究活動を積極的に推進する大学」の実現を目指し、MOOC(※1)を開講することとなりました。

ドコモ gacco は、JMOOC(※2)公認配信プラットフォーム「gacco®(ガッコ)」の運営を通じて、これまで25万人の会員に対し、150を超える講座の提供をしております。このたび、東北大学の学生しか受講できなかった質の高い講義を「gacco®(ガッコ)」の無料オンライン講座として、幅広い方に受講していただけるようになります。

東北大学では、引き続き本学の強みや特色を生かした講座コンテンツをこれからも発信していく予定です。今後の展開もぜひご期待ください。

■開講講座

〈東北大学サイエンスシリーズ〉

「**解明:オーロラの謎**」理学研究科 小原隆博教授

〈東北大学で学ぶ高度教養シリーズ〉

「**memento mori-死を想え-**」文学研究科 鈴木岩弓教授

■受講登録方法(はじめて gacco を利用される方)

1. 受講登録する講座の URL を下記より選択してください。

「**解明:オーロラの謎**」

【URL】https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga079+2017_02/about

「**memento mori-死を想え-**」

【URL】https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga080+2017_02/about

2. 「ga079/ga080 受講登録」ボタンから会員登録ページにアクセスし、メールアドレス等所定の事項を入力の上、「アカウントを作成する」ボタンをクリックして会員登録を行います。
3. ご登録いただいたメールアドレスに確認用のメールが送信されます。メールに記載されているアクティベーション用のリンクをクリックして、登録作業を完了してください。
4. 「gacco」サイトにログイン後、「受講登録した講座」に表示されていることを確認してください。
5. 開講日以降に「gacco」サイトにログインすると、受講可能となります。

※ 講座はすべて無料でどなたでも受講可能です。一定の条件を満たせば修了証が発行されます。

<注>

※1 MOOC:Massive Open Online Courses の略。

Web 上で誰でも無料で参加可能な、大規模かつオープンな講義を提供し、修了者に対して修了証を発行する教育サービスです。2012 年より米国を中心として、主要大学および有名教授によるオープンオンライン講座として公開され、世界中から 3,500 万人以上が受講しています。

※2 JMOOC(一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会)は、日本での MOOC 普及・拡大を目指し、2013 年日本全体の大学・企業の連合により設立された組織です。

*「gacco」は株式会社ドコモ gacco の登録商標です。

本件に関するお問い合わせ先

■講座に関すること

東北大学オープンオンライン教育開発推進センター

<http://mooc.tohoku.ac.jp/>

担当: 岩井、佐久間

電話: 022-795-4933 E-mail: secretary.mooc@grp.tohoku.ac.jp

■受講登録に関すること

株式会社ドコモ gacco 広報・マーケティング室

担当: 岩瀬、草間

電話: 03-3456-1200 E-mail: marketing@gacco.co.jp

■講座の詳細



〈東北大学サイエンスシリーズ〉 『解明：オーロラの謎』



小原 隆博
東北大学大学院
理学研究科教授

講座内容

寒い地域の夜空を彩るオーロラについて、光る仕組み、出現の特性、突然爆発する様子、そして、オーロラのエネルギーの流れなどについて講義します。

講師は、人工衛星による宇宙観測を推進している宇宙科学研究所にて、オーロラ観測衛星プロジェクトに携わり、オーロラ研究の最前線を経験したのち、安全な宇宙開発のために、JAXAにて、太陽環境変動の研究を進めました。そして、現在、東北大学惑星プラズマ・大気研究センターにて、望遠鏡群を用いて、太陽惑星環境を研究しています。

今回の舞台は、地球周辺の宇宙空間ですが、木星や土星にも、オーロラ現象は見られます。これらの惑星のオーロラの原因は、太陽であることが人工衛星や惑星探査機の活躍によって、明らかになってきました。太陽表面の絶え間のない変動、特に黒点の変動と、その影響を強く受ける惑星周辺の宇宙空間について、最新の人工衛星と地上望遠鏡の成果を基に、解説します。

そして最後に、地球のオーロラの光が、生命活動によって作られた酸素の光であることを確認し、これから始まる地球外生命探査の可能性で締めくくります。

〈講座担当講師紹介〉

1985年東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程修了（理学博士）、文部省宇宙科学研究所（ISAS）助手、郵政省通信総合研究所（CRL）室長、情報通信研究機構（NICT）グループリーダー、宇宙航空研究開発機構（JAXA）グループ長を経て、2012年4月から東北大学 惑星プラズマ・大気研究センター長。日本地球惑星科学連合（JPGU）理事、国連宇宙空間平和利用委員会（UN COPUOS）宇宙天気専門家会合議長、国際宇宙空間研究委員会（COSPAR）宇宙天気パネル議長等を歴任。2004年、田中館賞（あけぼの衛星による極冠域オーロラと放射線帯電子加速に関する研究）受賞。専門は太陽惑星環境物理学。

〈著書〉

『総説 宇宙天気』（京都大学学術出版会）（共著）
『太陽地球系科学』（京都大学学術出版会）（共著）
『アシモフ博士の宇宙探検シリーズ（全26巻）』（福武書店）（訳）

修了条件

理解度確認クイズと最終テストの合計得点の60%以上

各週項目

第1週：「オーロラの不思議」

オーロラ研究の流れとオーロラの仕組みについて学びます。

（各回の項目：イントロダクション、オーロラ観測の歴史、オーロラ研究の幕開け、オーロラの出す光、オーロラ概観、宇宙からのオーロラ観測、地球磁気圏、オーロラのふるさとを探る、他の惑星のオーロラ）

第2週：「活動する太陽」

オーロラの原因である太陽活動について学びます。

（各回の項目：恒星としての太陽、太陽の内部構造、太陽大気、太陽風、太陽の磁場、黒点、黒点の長期変動、太陽フレア、コロナ質量放出）

第3週：「惑星のオーロラ」

オーロラが、磁場と大気を持った惑星に、共通に見られる現象であることを学びます。

（各回の項目：惑星の磁場、地球磁気圏、地球のオーロラ、宇宙空間のさえざり、木星のオーロラ、木星からの電波、土星のオーロラ、天王星と海王星のオーロラ、水星の磁気圏）

第4週：「望遠鏡と探査機で探るオーロラ」

地球や惑星のオーロラを観測する方法について学びます。

（各回の項目：地上からのオーロラ多点観測、宇宙からのオーロラ観測、地上からの惑星オーロラ観測、宇宙からの惑星オーロラ観測、木星探査機による観測、土星探査機、木星探査機 JUNO、水星探査機、まとめ）



〈東北大学で学ぶ高度教養シリーズ〉
『memento mori -死を想え-』



鈴木 岩弓
東北大学大学院
文学研究科教授

講座内容

memento moriというラテン語は「死を想え」という意味で、現在は幸せに生きている自分自身もいずれは死を迎えることを忘れるな！という警句です。特に中世末期のヨーロッパ、ペストが蔓延するなどして逃れようのない終末観の中で享樂的な生活におぼれるキリスト教徒に対して発せられたこの言葉は、現世での楽しみや贅沢が虚しいものであることを強調するものであり、来世に思いを馳せるきっかけとなりました。

”Man is mortal. (人は死すべき存在である)”とされるように、われわれ人間はいつか必ず死を迎えます。しかし死んだらどうなるのかと言った、古い時代からの永遠の疑問は、未だ解き明かされないままです。死後世界へと旅立った人々の誰一人として、この世に戻ってきた人がいないからなのでしょう。

そのため正解のわからない死をめぐる、人はさまざまな生活様式(=文化)を創造してきました。

授業では現代日本人の死の文化を中心に、「死」について考えます。

〈講座担当講師紹介〉

1951年8月東京生まれ。

東北大学文学部卒業後、同大学院博士前期課程、後期課程を経て島根大学助手。同講師・助教授を経て、東北大学文学部助教授。現在、東北大学大学院文学研究科教授。

専門は宗教民俗学・死生学。

宗教の“現場”に立った視角からフィールドワークを行い、日本人の死生観・民間信仰概念の展開・流行神の形成過程などに関心をもつ。

〈著書〉

『変容する死の文化-現代東アジアの葬送と墓制-』
(2014年：東京大学出版会)

『講座東北の歴史 第六巻 生と死』
(2013年：清文堂)

『いま、この日本の家族絆のゆくえ-』
(2010年：弘文堂)

『文化と現代世界-文化人類学の視点から-』
(1991年：嵯峨野書院)

修了条件

理解度確認クイズと最終レポートの合計得点の60%以上

各週項目

第1週：「死とは何か？」

正解がわからない死に対して、人は長年にわたってさまざまな方向からその意味を考えてきました。その“成果”を神話や宗教、民俗や語彙などに探る中から、死が科学的な真理ではなく、人が生活様式の中で決めてきた文化であることを示します。

第2週：「死者と生者の接点」

「死者」が「意味ある死者」と「一般的死者」に二分されることを示し、特に前者と生者の関わりに注目します。両者の接点がさまざまな場、さまざまな機会に多元的になされていることを理解し、位牌・遺影・墓碑銘など、死者のシンボルとなるモノとの関わり方の根底にみられる原理を考えてみます。

第3週：「日本人の死生観」

日本人のもつ霊魂観に焦点を当て、死者の霊魂との出会いの場を具体的な霊場での行動などから検討します。こうした事例の中から、日本人の死者に対するさまざまな想いを把握し、日本の伝統社会における死生観のあり方を考えてみます。

第4週：「社会変動の中の死の文化」

アリエスの所論を“鏡”に、わが国にみられる死の理解の変化を検討してみます。またイエの崩壊・地縁の希薄化と共に生業形態・家族形態・価値観の変化などの大きな社会変動に見舞われ、変化することを余儀なくされている現代のわが国における死の文化の実情を理解し、今後へ向けた展望をまとめます。